足元の運用状況について

ニッポン国家成長戦略ファンド　追加型投信/国内/株式

JAPAN GROWTH STRATEGY

- 当ファンドはマザーファンド「ニッポン国家成長戦略マザーファンド（以下、マザーファンド）」への投資を通じて、日本の国家戦略が生み出す成長機会に着目し、新たな価値創造に挑む企業へ投資を行います。
- 本レポートでは、当ファンドの運用状況についてご説明いたします。

足元の運用状況について

AI関連株を中心に調整、足元は値動きの荒い展開

9月の株式市場は、日米の金融政策を巡る不透明感や、アンソロピック社CEOによるAI開発ペースの抑制を求める発言を受けたAI関連投資の鈍化懸念などを背景にAI・半導体関連株を中心に下落しました。

こうした投資環境下、当ファンドの基準価額は9月中旬にかけて下落しましたが、株価下落は過度な反応であると判断し、AI関連株の組入れを引き上げたことで、その後の株式市場の反発で基準価額は持ち直しました。

10月初旬はAI関連株の反発が続き、基準価額も上昇しました。その後は、データセンター建設の遅れや、CoreWeave社の社債利回り高騰などで地合いが悪化し、リスクオフの様相が強まったことから、基準価額は下落に転じました。10月下旬にかけては、短期的な調整一巡感が意識されたことなどからAI関連株は反発し、基準価額も持ち直しの動きとなりましたが、月末にはインテルの弱い業績見通しなどを受けてAI関連株は再び下落するなど値動きの荒い展開となっています。

AI投資拡大の恩恵が期待される銘柄を中心に組入れ

当ファンドの運用においては、9月中旬に株式市場が下落した際に、AI関連株などテクノロジー株の組入比率を高めたポートフォリオとしました。具体的には、AI投資拡大の恩恵が期待される半導体関連株を多く含む電気機器や、AIの社会実装の進展が追い風になると期待される情報・通信業の組入れを引き上げました。

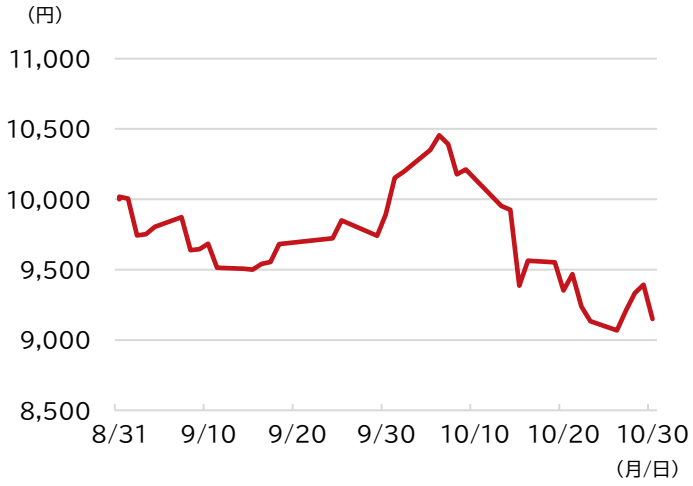
また、AI開発の進展によりWEBハッキングの被害が出るなど、安全なAIの社会実装のためには、高度なセキュリティ・インフラも不可欠であるとの認識の広がりを受け、中長期的な需要拡大が見込まれるITサービス株の組入比率も引き上げました。

当面の運用方針

当面の運用方針としては、国家戦略として進められるAI・データセンター投資やAIの活用シーンの拡大から恩恵を受けることが期待される銘柄を中心に組入れ、運用してまいります。

図表1　基準価額の推移

（期間　2026年8月31日（設定日）～2026年10月30日、日次）



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

図表2　組入上位10銘柄

（2026年10月30日時点）

	銘柄コード	銘柄名	セクター	組入比率
1	6098	リクルートホールディングス	サービス業	6.0%
2	6857	アドバンテスト	電気機器	5.7%
3	4062	イビデン	電気機器	4.3%
4	285A	キオクシアホールディングス	電気機器	3.9%
5	6501	日立製作所	電気機器	3.0%
6	6758	ソニーグループ	電気機器	2.8%
7	4004	レゾナック・ホールディングス	化学	2.7%
8	6532	ベイカレント	サービス業	2.6%
9	7832	バンダイナムコホールディングス	その他製品	2.4%
10	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.1%

※組入比率：ニッポン国家成長戦略マザーファンドの純資産総額に対する比率

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したものではなく、当該銘柄の株価の上昇およびファンドへの組入れを保証するものではありません。

注目銘柄のご紹介

4062 イビデン

イビデンは、高性能サーバー向けICパッケージ基板で世界トップクラスのシェアを有する企業です。特に先端AIサーバー向けで競争力を持ち、NVIDIAのGPUやIntelのCPUなどに用いられる高性能ICパッケージ基板を供給しています。これまでの生成AI市場では、文章や画像の生成など、大量の演算処理を担うGPUに注目が集まってきました。

一方、足元ではMetaの「Muse」やOpenAIの「Dots」など、ユーザーに代わってさまざまなタスクを継続的に実行するAIエージェントが注目されています。AIの活用範囲が広がることで、GPUに加えCPUを含むデータセンター向け半導体の需要拡大が期待されています。GPUとCPUの双方に用いられる高性能ICパッケージ基板を手掛けるイビデンは、こうしたAI関連市場の拡大の恩恵を享受することが期待されます。

図表3 株価の推移
（期間 2025年12月30日～2026年10月30日、日次）



（出所）Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

10月30日の株価急落について

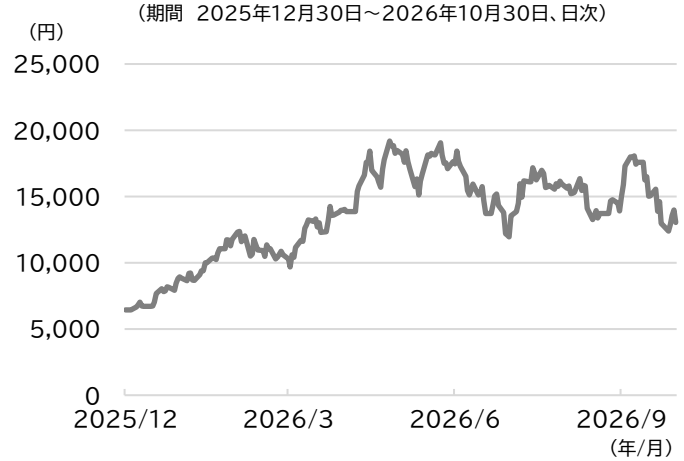
10月30日にイビデンの株価は急落しました。これは29日（現地）に米国株式市場でAI関連株が下落したことや、引け後発表のインテルの業績見通しが市場予想を大きく下回った影響とみられます。インテルについては消費者向けPCの弱い見通しが背景であり、データセンター関連のCPU需要は引き続き旺盛な事業環境が示されています。イビデンの売上はデータセンター関連向けが大半であり、同社の成長見通しに大きく影響することは現時点では想定しにくいとみています。目先は株価変動が大きくなる可能性はありますが、中長期的には最先端のGPUおよびCPUの市場成長を取り込むことができるイビデンに大きな投資機会があることは変わらないとみています。

4004 レゾナック・ホールディングス

レゾナック・ホールディングスは、半導体後工程材料で世界トップクラスの競争力を持ち、複数の製品で世界シェア首位を誇る機能性化学メーカーです。半導体・電子材料事業への経営資源の集中を進めるため、2026年10月1日付で石油化学事業を担うクラサスケミカルをパーシャル・スピンオフ*により分離しました。分離前は、石油化学製品から半導体向けの高機能材料まで幅広く手掛けていましたが、分離後は、半導体・電子材料事業を成長の中核に据えています。得意とする材料技術を生かし、成長性と収益性を重視する経営へと大きく舵を切った点に注目しています。

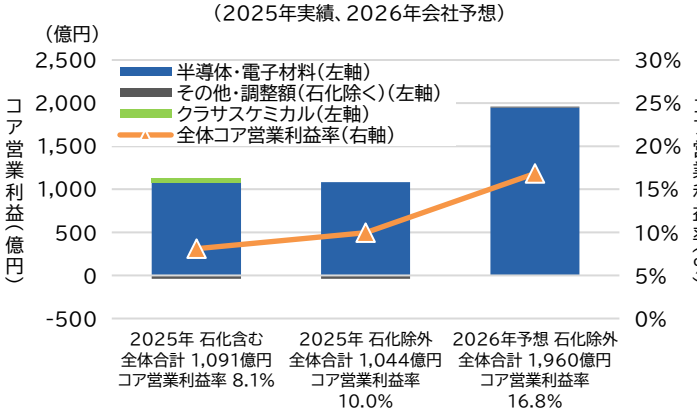
＊新会社の株式の大部分を株主に配り、一部の株式のみを保有する仕組み

図表5 株価の推移
（期間 2025年12月30日～2026年10月30日、日次）



（出所）Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

図表6 コア営業利益※の内訳・全体合計と利益率
（2025年実績、2026年会社予想）



※コア営業利益：一時的な損益等の影響を除き、継続的な事業の収益力を示すために会社が独自に算出する利益指標

（出所）同社決算資料（2026年8月）を基にSBI岡三アセットマネジメント作成

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したものではなく、当該銘柄の株価の上昇およびファンドへの組入れを保証するものではありません。

販売会社一覧　（2026年11月2日現在）

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
（金融商品取引業者）					
岡三証券株式会社	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長（金商）第169号	○			
岡三ビジネス&テクノロジー証券株式会社	関東財務局長（金商）第170号	○	○		
野畑証券株式会社	東海財務局長（金商）第18号	○			○

委託会社
お問合わせ先
電話番号
03-3516-1300（営業日の9:00～17:00）
ホームページ
https://www.sbiokasan-am.co.jp

ニッポン国家成長戦略ファンドに関する留意事項

■ 投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。
ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

基準価額の主な変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」があります。その他の変動要因としては、「流動性リスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。

■ お客様にご負担いただく費用

＜お客様が直接的に負担する費用＞

●購入時 【購入時手数料】：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）

●換金時 【換金手数料】：ありません。【信託財産留保額】：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

●保有期間中 【運用管理費用（信託報酬）】：純資産総額×年率1.628%（税抜1.48%）

●その他費用・手数料 【監査費用】：純資産総額×年率0.011%（税抜0.01%）
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）

○お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

○詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

SBI岡三アセットマネジメント

商　号　等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第370号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いします。